

『ロンドン』

成田から飛行機で12時間。降り立つとなんとなく懐かしい感じ。2度目ロンドン。タクシーから眺める景色、私はやっぱりこの街がすごく好きかもしれないと再確認する。

ホテルに荷物を置くと、すぐにタクシーで劇場へ。ロンドンで「レ・ミゼラブル」を見る。あんまり素晴らしいんで渡英初日から盛り上がる。さっそくフィッシュアンドチップスを食べてすっかり観光客。

翌日からは遊ぶ暇はまったくなく、よく働いた。朝の9時に朝食。普段こんな時間にはめったに起きないし、朝ご飯をきちんと食べたりはしないのに、なぜ旅に出るとお腹がすいてしまうんでしょう。連日12時からスタジオ入り。こちらのミュージシャンは昼から集まり、夜には撤収する。意外に健康的な習慣なのね。私たちの普段は、12時入りって結構早い方だし、集まったもののちんたらしてなかなか始まらなかつたりするし、朝までコースは当たり前なのですが。



バンドさんと一緒にライブで歌をとったり、ストリングスいっぱい来てゴージャスな気分だったり、毎日楽しい楽しい!!仕事は笑っちゃうぐらい順調に進み、アルバムの核となる部分はすべてやり終えた。ロンドンの高電圧による太い音と、ロック魂のやどるマイクと、高い天井のスタンドグラスから降る光と、イングリッシュティーの力を借りて、私のニューアルバムは急速に成長、その全容が明らかになってきた。皆の衆は12月10日を待て。

エンジニアのステーブならびにアシスタントのオリガちゃん、そのまたアシスタントのベン、みんなものすごく優しいので居心地が良い。私が一生懸命英語を話すとみんな妙に応援してくれる。おそらく超コドモに見えるのだろうね、向こうの人から見ると。

途中、ひょっこり作詞家Tim参上。偶然にも別の仕事でロンドンに居たということで遊びに来た。そこへさらにもう一人遊びに来たのはイタリア人シンガーのイラリア。菅野さんのアルバムに参加しているアーティストで、私は初対面だったけどすごく良いお友達になれた。お互いに英語はたどたどしいので、スロ——に会話が繰り広げられる。そんなわけで色々な人が集まり、なんだかワイワイしていた。

今回こちらで仕事をしながら感じたのは、みんな褒めるのが上手ってこと。良いと思ったら相手を見て言葉にして褒める。それって私たち日本人には不得意なことではないかしら、と思いました。照れくさかったり、言葉にしなくてもわかりあえると思ってしまうから。でもこっちでは、言葉にして態度で感動を伝えないと、相手は「気に入らなかったのかな?」って不安がってしまう。だから今回はここで、人を褒める英語をいっぱい使ったし、いかにまっすぐ気持ちを伝えるかということを勉強しました。

ロンドン最終日、ステーブたちとの別れが辛い。みんなすごくあったかかった。一緒に仕事するのが本当に楽しかった。お世話になって、感謝してます。また会える日を楽しみにしているだよ。

ところで、やっちゃいました、私。パーカーをタクシーの中に置きわすれてしまいました。問い合わせても、帰国までに見つかればラッキーとのこと。あーあ、なんてバカ。ロンドンには27度とまだ蒸し暑かったのでそれほど気になりませんが、このあとスコットランドへ行くことを考えると少し心配。あつちはロンドンより涼しいらしいので。さあ、スコットランドへ旅立ちます。それではまた。

* maaya *

THE ID...the id : 2003.9.4

『私の夏』

えっ!前回更新したのは6月4日?!いつの間に3ヵ月近くもたっていたのでしょうか…。すっかりご無沙汰ですみません。

id上では空白の3ヵ月間、でも私自身は空白どころか、ぎっしり、ずっしり、パツパツに詰まった日々をおくっていました。そう、ミュージカル「レ・ミゼラブル」の稽古追い込み、及び本番に費やした3ヵ月だったのです。観にきて下さった皆さん、本当に、本当にどうもありがとうございました。

舞台出演の経験も少なく、きちんとボイストレーニングもしたことがない私。圧倒的に修行の足りない私ですから、あんな大きな舞台であんな素敵な役を演じさせていただけことは大きな名誉であり、そして試練でした。自分の思い描くエポニーヌという女性像、それを表現するには今の自分の力では届かない、そんなジレンマな日々でもありました。慣れない世界に飛び込むのは、勇気と体力が要ります。悩んで悩みまくって、転んだり起き上がったり、逃避したりまた戻ってきたり、とにかく今までこんなに苦しんだことはなかった。だけど今、私はそういう悩んだ自分も含めて、出会えてよかったな—とってます。

子供のころから歌やお芝居が大好きで、そのまま大人になってしまいました。歌い手として、というよりも、ことばやジェスチャーと同じように、自分の表現方法のひとつとして作品をつくって、私は自分のために歌っている。

ミュージカルのように、あるひとつの作品の中で演技をしながら歌いながら別人の気持ちを表現するって、すごい難しいんだねえ。なんて今頃言うな!って感じですが、本当にそう思うんです。それは、私にとって、普段使っていない筋肉を使うような感じ。いつもと逆の方向から歌に入ってく感じ。

だからこうしてレミゼを経験しながら、一方で自分のアルバムも作っていたこの夏は、腹筋も背筋も使って、より一層背筋が伸びたような気がする(こんな表現でわかるかな—?)。

今回もっとも感じた喜びのひとつは、やっぱり「出会い」です。この超絶人見知りで有名(一応私のまわりでは有名)な私ですから、はじめて会う人ばかりで最初は本当に緊張してました。でもキャストの皆さんも、スタッフの方々も、ほんとうに素晴らしい方ばかりで、何度も助けられ、励まされました。心から感謝しています。

そして「レ・ミゼラブル」そのものに感謝。どんなにつまずいた時も、この作品が好き!という気持ちだけは見失うことがありませんでした。それだけで、なんとか前を向いていられました。たくさんの人に愛され続ける作品には、やっぱり大きな力がある。それを実感しました。未熟ながらも、全ステージを全力で、誠心誠意やらせていただきました。まだ課題を残したままではありますが、今の私にできる精いっぱいのエポニーヌでした。1月に博多公演があります。もう一度エポニーヌになります。その時はまた、頑張ります。

自分がいる場所を、居心地よく保つていうのもすごく大変。思い切って違う場所にも行ってみるともっと大変。だけどその後、また自分の場所に帰ってきたときに少し違った景色が見える気

がします。

さて、今月レコーディングでまたロンドンに行ってきます。ロンドン3年ぶりかあ!楽しみだなあ。あちらに居る間にidを更新したいとおもってます。お楽しみに。長い間ほったらかしてた埋め合わせしなくちゃね!

* maaya *

... **THE ID**